

日本語表現法・アカデミックライティング

⑥ 1 担当教員名

教授	室 寺 義 仁	(医療文化学講座 (哲学))
教授	加 藤 穰	(医療文化学講座 (英語))
教授	兼 重 努	(医療文化学講座 (文化人類学))
准教授	小 島 隆 次	(医療文化学講座 (心理学))
主 幹 助	川 晃 自	(国際企画室)

⑤ 2 配当学年等

第1学年 後期 2単位

① 3 学 修 目 標

大学の各授業において課せられるレポートを作成するに当たり、医学生として相応しいレポートを完成することのできる、豊かな教養に基づく学術的能力を高めることが目標です。そのために、(1) 日本語での表現力、特に、読み手・聞き手に伝える手法を高めること、そして、(2) その一つの表現の形であるアカデミックなライティング (学術的な記述) のために必要な技法を習得すること、並びに、アカデミックな活動を行う者、すなわち、科学的探求心を有する者に求められる社会的責任感としての確固たる倫理を身に付けることを目指します。

② 4 授 業 概 要

アカデミック・ライティング (学術的な記述) のためには技法、あるいは、記述のためのルールや作法を習得する必要があります。そこで、まず、情報や文献を引用するときのルールを学び、レポート執筆の作法について学びます。そして、次に、そのような諸々の技法が、対社会的に、あるいは、同業者集団内、例えば、医療人の仲間内において、なぜ必要とされるのか、研究不正や研究倫理という今日的課題についての初歩を学び、具体的な事例を通じて、理解を深めます。併せて、母国語以外の言語を用いるときの、教養ある表現の仕方を学びます。その上で、言語を用いた説明・教示の方法や質問の方法について実践的な基礎知識を学習します。

受講生にとって、それぞれの分野の講師陣による講義を聞き、その内容を、まず聞き取る力 (聴聞力)、次いで、教材資料を読み解く力 (読解力) を高めること、同時に、興味関心を広げて、考えを深める力 (思考力) を繰り返す力 (継続力) を習慣化すること、そして、自ら問いを立て (構想力)、その問い掛けや自らの考え方を読み手・聞き手に分かり易いように伝えること (表現力)、これら一連の能力を開発することを目的としています。

受講生には、各回の講義において取り上げられる<内容>について、各自の理解できる範囲で良いので、自主学習 (予習) を進めておくことが求められます。そして、講義を聞き、知識・考えを広め、個々の課題レポートなどを作成する過程で、思索を繰り返すこと (復習)、並びに、自らの考えを客観的合理的に記述することが求められます。

③ 5 授 業 内 容

各講義を担当する講師によって、それぞれの講義内容が立てられ、内容に応じたレポート課題が提示されます。内容は、アカデミック・ライティングと日本語表現とに、大きくは二分されますが、根本にあるのは、豊かな教養に基づく学術的能力を高めるための授業内容です。

回	年月日 (曜日)	時限	担当教員	項 目	内 容	教室
第1回	令和4年10月3日 (月)	2	兼 重	アカデミック・ライティング	レポート執筆の作法 (入門編)	①・②・③
第2回	令和4年10月17日 (月)	2	兼重 附属図書館 職員	アカデミック・ライティング	文献資料引用のルール、著作権について	①・②・③
第3回	令和4年10月24日 (月)	2	兼 重	アカデミック・ライティング	文献資料引用のルール	①・②・③
第4回	令和4年11月7日 (月)	2	〃	アカデミック・ライティング	レポート執筆の作法 (基礎編)	①・②・③
第5回	令和4年11月14日 (月)	2	〃	アカデミック・ライティング	レポート執筆の作法 (応用編)	①・②・③
第6回	令和4年11月21日 (月)	2	加 藤	研究不正	剽窃・盗用などの不正行為について	①・②・③
第7回	令和4年11月28日 (月)	2	〃	分かりにくい表現	引用・校正、分かりにくい表現の書き換え方、海外文献の検索について	①・②・③

回	年月日(曜日)	時限	担当教員	項目	内容	教室
第8回	令和4年12月5日(月)	2	加藤	分かりにくい表現	論理展開や記述上の問題点を事例から考える	①・②・③
第9回	令和4年12月19日(月)	2	助川	母語の外での表現	ことばで人を傷つけないために	①・②・③
第10回	令和4年12月26日(月)	2	室寺	研究倫理	研究者に求められる倫理についての基礎知識	①・②・③
第11回	令和5年1月10日(火)	2	〃	分かり易い表現	医療人を指す者として、受講生各自が大切にしている言葉を題材として考える	①・②・③
第12回	令和5年1月16日(月)	2	〃	分かり易い表現	メッセージ性の高い言葉を題材にして考える	①・②・③
第13回	令和5年1月23日(月)	2	小島	説明・教示の方法 (オンデマンド)	言語による分かり易い説明・教示の方法について	①・②・③
第14回	令和5年1月30日(月)	2	〃	質問の方法 1 (オンデマンド)	質問紙作成時の基本事項の確認	①・②・③
第15回	令和5年2月6日(月)	2	〃	質問の方法 2 (オンデマンド)	質問項目を作成してみる	①・②・③

6 授業形式・視聴覚機器の活用

基本、講義形式の対面授業。

⑦ 7 評価方法

授業担当の各教員から提示される課題レポート、あるいは、小テストやコメントシートなどの提出をもって評価します。レポートの提出は、基本的にWebClassの所定の画面から行って下さい。但し、教員から別途指示がある場合には、その指示に従って下さい。

対面での授業実数の3分の2を超えて出席していることを前提として成績評価を行います。出席回数は自己管理して下さい。また、事情により対面授業に出席できなかった場合は、課題の提出をもって出席に数えます。定期試験は実施しません。

各教員による評価点数を合算し(100点満点に換算して)成績評価を行います。なお、レポートの提出確認は、WebClassを介して提出した場合、学生画面から「成績」>「マイレポート」で、各自で確認して下さい。

8 テキスト

指定テキストはありません。それぞれの授業の中で参考図書などについて紹介する予定です。

9 オフィスアワー(授業相談)

授業用E-mailアドレス宛に、授業相談のためのアポイントメントを取る相談メールを送って下さい。適宜、対応します。【室寺】各講義担当の他の教員についても、予め、メールでの相談を行って下さい。

10 学生へのメッセージ

医学部を卒業するときには身に備わっている(はずの)豊かな教養に裏打ちされた表現能力を開発するための基本的な技法や作法を学びます。客観的で合理的な記述の仕方、学術的な記述の仕方を学習しましょう。

11 授業用E-mail

murojiji@belle.shiga-med.ac.jp